

日本鉚螺株式会社

大量生産、適正価格、 即納で高い競争力

納期
相対
コスト
相対
生産
量対



炭素鋼や合金鋼など各種素材による六角ボルト

業務内容 多様な素材の加工を実現

六角ボルトや六角穴付きボルト、皿ボルトを月間1500t体制で生産する。品質の安定化を目的に伸線加工から一貫して手がけている。ボルト製造は炭素鋼や合金鋼、ステンレス鋼などと多様で、各種素材に対応できるのが強み。特性が違う複数の素材を同一の設備で生産する形態はねじ業界で極めて珍しく、西川倫史社長は「同一設備でどのような異種材料を使い分けるのか」といった疑問が工場内を見学した同業者から飛び交う」という。きめ細かなメンテナンス作業など長年蓄積したノウハウにより、それを実現しているようだが、「複数の材料を使い分けることが社内で標準になっているので、なぜ実現できるのかを説明するのは難しい」と話す。

強み 商品センターで 製品を一括管理

平成10年に立体自動倉庫を持つ「商品センター」を大阪府八尾市に設置し、常時4000tの在庫を持つ。専門商社が膨大な量の在庫を持つ業界にあつては異例のことだが、あえて岩本昭利前社長は英断した。西川社長も加わって物流システム構築に取り組んだ。その結果、製品ごとの最適ロット数の把握や生産品と在庫品の混在解消など、ねじの需給バランスに合わせて生産管理が可能になった。合理化を進めることで海外輸入品にも負けないコスト競争力もついた。そして何より在庫の保有で、顧客へのきめ



生産と在庫のバランスが肝

細かな対応が可能になったほか、注文への即納体制も構築できた。

人材育成 ねじ製造技能検定士の 取得と社外へのアピール

同社は（一社）日本ねじ工業協会が認定する「ねじ製造技能検定士」の取得を目標に掲げる。現在は6名が取得しており、検定試験の運営側に回る試験官も輩出している。資格取得に加えて、外部に対する自社製品および技術力のプレゼンにも積極的に取り組む。西川社長は「最近になって、ようやく任せてもらえるようになった」という。強烈なリーダーシップを持つ岩本前社長とのカラーの違いは外部へのアピール度。それは平成23年の「東大阪商工会議所会頭賞」の受賞につながった。「社員モチベーション向上や仕事に対するプライドができる」とその意義を語る。

今後の展望 特注品への対応のため 設備を導入

必要な数量を迅速に納入するのが強みだが、ここ数年間は取引先からの要望にも変化が出てきており、現有の設備だけでは対応しきれない仕事も増えつつある。基本的には規格品の量産で培った技術を活かして特注品に対応するが、平成26年秋には試作品や製品の圧造工程を確認しやすくするために圧造シミュレーションソフトを導入した。金型の修正や設計のやり直しがなくなり、コスト削減や納期短縮にもつながりつつある。そのほか、建築や道路関係などを中心にねじ頭の口径が大きな製品に対応するため、平成28年中に八尾工場内に転造機を導入する計画。特殊品への対応力を高めると同時に、顧客の開拓にも力を入れる。

COMPANY PROFILE

日本鉚螺株式会社

大阪
27

ISO 9001

当社の 歴史

昭和14年に初代社長の岩本利一が「岩本製鋸所」を立ち上げ、釘や螺子の製造を始めました。太平洋戦争の激化で一時期休業するも、2代目社長の岩本昭利が大学卒業を機に再開。ボルトの生産に切り替え、社名を変更。創業者と所縁のある神戸市の「錨（いかり）山」と、船を岸壁につなぎ止める「錨」の力強いイメージを重ね合わせ、ブランドマークを「イカリ印」にしました。

オンリーワンはありませんが、日本の地で輸入品にも負けず創業から75年続いていることに注目してください。

代表取締役社長 西川 倫史さん



■主な事業内容 金属製ねじ製造

■主な取引先（納入先）

建築金物メーカー、建設機械メーカー、鉄道車両メーカー、水道ポンプメーカー、工作機械メーカー

住所 / 〒578-0924
東大阪市吉田
4-4-32

TEL / 072-962-0761
FAX / 072-965-5514
創業 / 昭和14年7月
設立 / 昭和32年5月
資本金 / 4,500万円
従業員 / 84名

<http://www.nipponbyora.co.jp>